

■ 2021 年度事業計画

2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大は私たちの生活を大きく変えました。ソニー教育財団の活動も大きな制約を受け、多くのイベントが中止、延期、縮小を余儀なくされました。学校や保育の現場でも休校・休園、オンライン授業、感染症防止対策の徹底、イベントの中止（見直し）など、教育・保育の現場にも大きな混乱を招きました。こうした中、当財団では事業をゼロベースに見直し、新しい環境下で何ができるか、何をやるべきか、どうやればできるかを考え直す機会としました。とくにオンラインについては手探りながら学習し、その活用により、様々な活動を新しい様式も取り入れながら再開させることができました。また、これからの事業の在り方を議論し、教育実践論文の部門新設、保育者ネットワーク会員組織の発足と拡大、教員研修体系の改革など、2021 年度の事業計画策定につなげています。他方、学校の先生方や保育者の方々も答えのない対応に追われる中、互いにつながり、知恵を出し合い乗り切っていく姿も数多く見受けられました。コロナ禍の完全収束には時間がかかると想定されますが、当財団も現場を支える先生や保育者の方々となら、ともに高め合いながら、子どもたちの未来を育む活動を進めてまいります。

【公 1】 科学教育を中心とし、乳幼児および児童生徒の豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す事業

教育実践論文募集をベースとした本事業は、当財団の主幹事業であり、主題に沿った教育実践の論文を募集し、入選表彰をするだけでなく、その実践を他校・他園に紹介し、ともに研鑽していくことを目指しています。2021 年度も引き続き、応募論文の量の確保と質の向上を目指しつつ、入賞校・園の実践紹介、波及についても前年度で得たオンラインのノウハウも取り入れながら、コロナ禍が続く中でも効果的な方策による活動を推進していきます。

1. 幼児教育

ソニー幼児教育支援プログラムは「科学する心を育てる」を論文主題として、保育実践をまとめた論文を募集、先進的な取り組みを行う園に対し、助成するものです。また上位入賞園への助成に留めず、園による公開研究会・発表会などの開催や実践事例の紹介などを通じて、論文主題への理解を広く深め、多くの園の活性化や保育の質の確保と向上を目指します。残念ながら、2020 年度はコロナ禍により論文応募数が減少に転じましたが、保育現場には落ち着きが戻りつつあり、再び応募が戻ってくると期待しています。また、昨年発足させた保育者の個人会員組織（乳幼児のための「科学する心」ネットワーク）は入会者が 400 名近くに達し、会員限定の SNS 上では「科学する心を育てる」保育についての投稿や交流が盛んに行われ、論文への関心も高まりを見せています。この個人会員組織の拡充を図り、有効な働きかけを行うことで事業発展を目指します。

（1）教育実践論文の募集（ソニー幼児教育支援プログラム）

2020 年度の論文募集には、コロナ禍にも関わらず、全国 136 園からご応募いただきましたが、前年比で 17 園の減少となりました。2021 年度もコロナ禍の影響は不透明ですが、保育現場の落ち着きとともに、応募意欲が回復することを期待し、活動を進めてまいります。応募状況について都道府県別に分析すると、保育施設数の多い地域と地域自主研究会の開催地域からの応募が多い傾向が顕著にみられます。そこで保育施設の多い割に応募数が少ない都道府県を 5 つ（北海道、茨城、千葉、静岡、福岡）選定、その地域を重点強化地域とし、自主研究会の立ち上げを進めていくなど、積極的にアプローチし、応募につなげるよう活動していきます。

（2）ベストプラクティスの共有を目的とした「発表会・研究会」などの開催

①「最優秀園実践発表会」の開催

2021 年度も保育実践（ベストプラクティス）の伝播波及を目的とした最優秀受賞園による実践発表会を開催し

ます。2020 年度最優秀園を受賞した「認定こども園やかまし村(宮城県)」および「希望丘幼稚園(東京都)」にはすでに開催について同意いただき、開催について具体的な検討に入っています。2020 年度は感染症対策のため、すべてオンラインによる発表会に切り替えて開催しました。オンラインのメリットもあり、集会による発表会同等の 300 人近い参加をいただきましたが、やはり、現地で子どもたちの様子が見える公開保育とリアルに語り合える協議会が行える発表会を超えるものではありません。コロナ禍の状況次第ではありますが、開催時期を下期以降にするなど、できる限り、現地での集会による発表会を前提に準備していきます。一方で、集会開催が難しい状況も想定されるため、オンラインによる開催についても検討し、どちらの方法でも開催できるよう並行して準備していきます。いずれにしても開催形態はどうあれ、参加者が「科学する心を育てる保育」についての理解を深め、各園の保育の質の向上及び、地域の「科学する心」の啓発に繋がるイベントとなるべく、開催園とともに作り上げてまいります。

②「優秀園実践提案研究会」の開催

優秀賞園にその実践を発表いただく提案研究会は園の任意による開催としていますが、2021 年度もできる限り開催いただくよう、働きかけてまいります。とくに本年度、優秀園 審査委員特別賞を受賞した「にじのおうち保育園（滋賀県）」につきましては、乳児のみの企業型保育所であり、今までの事例にはない 0～2 歳児を対象とした提案性の高い実践であることから、今後注目されるものとして、ぜひ開催すべく支援していきます。また、残る優秀賞園についても、とくに初受賞した園や、研究会が少ない地域の園には働きかけていきます。開催に際しては園のことはもとより、周辺の小中学校や近隣地域からの参加者の保育・教育の資質向上に寄与しながら、さらに「科学する心を育てる」保育が広く深く浸透されるものを目指します。

③保育者ネットワーク（個人会員組織）の拡充

昨年 6 月に保育者同士がつながり、学び合える会員組織「乳幼児のための『科学する心』ネットワーク」を発足させました。現在、全国から約 400 名の会員があり、メルマガや SNS を活用しながら、地域や学校・園を超えた交流が始まっています。2021 年度は会員拡大を目指すとともに、会員同士がより繋がり、「科学する心を育てる」保育の活動につながる施策を推進します。具体的には会員限定特別研修会の開催、会員同士の自主的な研究会の支援、財団主催の研究会・提案会などへの招待（交通費等の助成）などを会員特典として導入し、会員活動を拡げるとともに新規会員の獲得も目指していきます。

（3）実践事例の紹介

論文主題「科学する心を育てる」に迫る実践の伝播普及については、発表会・提案研究会のようなイベント開催に加え、様々な媒体を通じて発信していきます。財団ウェブサイトでは、「保育のヒント」として応募論文より具体的な実践事例を取り上げ、月 1～2 回程度の頻度で、紹介、掲載していきます。これまでに紹介された事例は約 900 件を超えており、アクセス数も年々増加しています。中には園の研修に活用いただいているとの声もあり、本年度も優良園やユニークな園の実践を中心に、他園の明日の保育に参考となる事例を解説とともに公開していきます。また、刊行物としては毎年好評の『科学する心を育てる』実践事例集を論文執筆のガイドブックとしても活用いただけるものとして制作を進めています。前年度応募論文のから子どもの主体性を基盤に「感性や創造性の芽生え」が発揮された実践を、テーマに沿って抜粋・編纂し、5 月以降、財団ウェブサイトにて公開していきます。また、論文応募への契機となるように研修会等でも活用していく予定です。

（4）「科学する心を見つけよう」フォトコンテスト

このフォトコンテストは保護者が子どもたちの自ら心を動かし、探求や感動している「科学する心」の姿に気づき、その

心を育んでもらうことを目的にしていますが、2021 年度も撮影時における感染症対策の配慮を呼び掛けながら継続してまいります。コロナ禍においては家族と一緒に過ごす時間が増えたときでもあり、保護者がじっくりと子どもの興味に寄り添い「科学する心」を見せた瞬間を見逃さずとらえてきた多くの写真が応募されることを期待しています。また、このコンテストが保護者のためだけでなく、家庭と園の保育をつなぐことに活用できないか新しく検討していく予定です。どこにいても見せる子どもたちの「科学する心」を見逃さず、育んでいける機会となるコンテストを目指します。

2. 子ども科学教育

「ソニー子ども科学教育プログラム」は小・中学校を対象に、「科学が好きな子どもを育てる」を主題とし、理科に限らず、広く教育の実践と計画に関する論文を募集し、その取り組みを進める学校に対して助成を行うものです。最優秀賞校は翌年に「子ども科学教育研究全国大会」を必ず開催し、全国の先生方や教育関係者にその取り組みを公開し、ともに学ぶ場を提供しています。

(1) 教育実践論文の募集（ソニー子ども科学教育プログラム）

2021 年度は従来の「教育実践論文」に加えて、新たに個人で応募できる「教育実践計画」の募集を開始いたします。この「教育実践計画」では将来を担う子供たちに必要な能力や資質は何かを考え、その育成についての今後の教育方針や授業計画について提案いただくことを趣旨としています。従来論文は学校単位での応募でしたが、この新設論文は日々指導の改善や創意工夫を行っている先生方が個人で応募でき、また、対象教科も理科・生活科だけでなく、全教科にわたって募集します。応募論文の中から新しい考え方や工夫を見出し、効果が期待できる計画には実践のための助成金を提供いたします。なお、従来の「教育実践論文」はそのまま継続し、今回新設される「教育実践計画」と相まって、個人で提案された「計画」が学校において「実践」され、質の高い論文となって応募されてくることを期待しています。

(2) 「子ども科学教育研究 全国大会」の開催

毎年、最優秀賞受賞校の教育実践を発表する全国大会ですが、2020 年度はコロナ禍の影響を受け、現地での集会方式は断念し、財団ウェブサイト上での発表という形といたしました。2021 年度は従来の集会方式を前提に、公開授業や協議会、パネル発表などを通じ、全国の小・中学校の先生方や教育関係者とともに、理科教育に関わる情報交換や教員同士の交流を図る大会を目指します。その際には各地域から参加を希望する意欲ある先生に対し、交通費などの参加助成制度を再開いたします。また、前年度に 60 周年記念イベントの一つとして予定していたながら実現できなかった全国大会への招待（応募校から抽選）についても改めて実施する予定です。一方で、未だコロナ禍の影響が定かでないため、オンラインなど集会方式に代わる開催方法も並行して準備しておく予定です。なお、開催校については小学校が「千葉大学教育学部附属小学校（千葉県）」、中学校は「旭市立干潟中学校（千葉県）」とともに千葉県となり、すでに開催に向けて検討が始まっています。「科学が好きな子ども」を育てる取り組みが全国に広がり、活発な活動が展開されることを期待しています。

3. 対外広報活動

コロナ禍の影響、とくに上期中はリアルイベントなどの開催が限定的になることが想定されるため、2021 年度も 1300 名以上の教員・保育関係者のフォロワーがいる財団 Facebook と、200 名を超えた「乳幼児のための“科学する心”ネットワーク」の会員制 Facebook グループの活用を強化し、財団メッセージを積極的に発信していきます。新聞やネットメディアには、新しく募集する子ども科学教育助成プログラムの「教育実践計画」と、幼児教育で前年度に発足した保育者の会員組織「乳幼児のための“科学する心”ネットワーク」の告知に力を入れます。とくに保育者会員組織については、関心の高い保育専門誌、雑誌などに紹介記事の掲載を働きかけていきます。なお、財団ウエ

プサイトの運営、プレスリリース、業界紙や地方紙などメディアへのタイムリーな発信も引き続き、実施していきます。

【公2】 科学教育を中心として豊かな人間性の確立と創造性の育成を目指す児童生徒対象の体験活動事業

この事業は全国の小学5年生から中学2年生までを対象とした「科学の泉－子ども夢教室」と小・中学生を対象とした「ソニーものづくり教室」によって構成されています。それぞれ対象にあわせて、ユニークな活動が展開されており、好評を博しています。

1. 科学の泉－子ども夢教室

「科学の泉－子ども夢教室」は、『自然に学ぶ』をテーマに、小学校5年生から中学校2年生までの28名の子どもたち（塾生）が参加し、白川英樹理事を塾長に、指導員として全国から公募した小・中学校の先生方の参加を得て開催している5泊6日の自然体験教室です。2021年度の開催については、コロナ禍や延期されたオリンピックの影響なども踏まえつつも開催の可能性を検討してきましたが、参加者の完全な安全確保が難しいことから、前年度に引き続き中止することに決定しました。一方、毎年恒例となっている卒塾生との交流会についてはコロナ禍の動向を注視しながら、開催を前提に引き続き検討していきます。

2. ソニーものづくり教室

ソニーの技術者や学校の先生方が講師となって児童・生徒を対象に行う「ものづくり教室」ですが、前年度同様コロナ禍のため、子どもたちを会場に集めた“リアル”なイベント開催は難しいと判断し、オンラインを活用した開催にシフトします。主な開催母体であるソニーグループ企業各社やソニー科学教育研究会（SSTA）に対して、ソニー(株)とともに作成したオンラインイベント用マニュアルを紹介、普及させながら、オンライン開催への働きかけと実行支援をしていきます。また、2020年度に初めて実施した aibo を利用した高校生向けの「ソニーエンジニア体験」企画が好評であったことから、さらにブラッシュアップした形での開催を検討しています。なお、中期的視野で今後に向けた「ものづくり教室」の新たな活動について、他社や他団体との連携も視野に入れた企画検討をスタートさせていきます。

【公3】 科学教育を中心とした教員の質的向上を目指す研究・研修等諸活動を支援する事業

財団の目指す「科学する心」をはぐくみ、「科学が好きな子ども」を育てるには、教育現場を預かる先生や保育者の方々が、これらの主題をしっかりと理解し、効果ある授業や指導をいかに実践していただくが重要になります。財団では先生や保育者の方々の育成を通じ、「教員の質的向上」に寄与していきたいと考えています。

1. 幼児教育

①「地域自主研究会」の推進

地域において5園以上が集い、「科学する心を育てる保育」を目指し、拡げることが目的とする自主的な研究会に対し、年間活動費の助成をいたします。現在、北海道、山梨県、長野県、大阪府、奈良県、兵庫県、大分県、新潟県、福岡県が10道府県で開催しており、2021年度も継続実施する予定です。いずれも新型コロナウイルスの感染予防対策をとりながら、各地域の実情に応じて支援を進めてまいります。また、開催時の経済的支援だけでなく、研修会のコンテンツ、オンラインライブやハイブリッド型などグループワーク方法やメンバーづくりのための活動などについても蓄積してきたノウハウも提供する支援も強力に行っていきます。

②「乳幼児のための『科学する心』ネットワーク」を活用した保育者主導活動の推進

2020年度に発足した保育者のための会員組織「乳幼児のための『科学する心』ネットワーク」においては会員拡大を進める一方で、会員間のコミュニケーションや活動を通じて、互いに学び合い、高め合っていく環境整備にも注力し

ていきます。まず、会員のリーダーとなりうる人材の発掘と育成を目的に新たに会員対象の「リーダー育成研修（仮称）」を設け、保育者として高い視点と広い視野を習得し、地域のリーダー養成につながる研修の企画導入を進めます。また、こうしたリーダーシップを発揮する人材のもと、志を同じくする会員（仲間）を集い、勉強会や研究会を立ち上げる活動を推奨し、会員による自発的研究会として様々な支援していきます。また、会員を対象に財団主催（共催）の発表会や研究会への参加希望者を募り、30名程度を招待（交通費助成）、会員同士がリアルに交流できる場の提供も行います。こうした活動を通じ、論文主題に迫る保育実践に触れながら、「科学する心」への理解を深め、園や地域への広がりを推進するとともに、目的を同じくする保育者が繋がり、学び合い、高め合える会員組織とすることで保育者の質的向上に寄与できればと考えています。

2. 子ども科学教育

(1) ソニー科学教育研究会（SSTA）への支援

SSTAは「科学が好きな子どもを育てる」教育を、情熱をもって推進する先生方の任意団体であり、全国に47支部、約2,000名の会員を擁しています。前年度、SSTAではさらなる活動の活性化を目指し、自らの研修体系を大きく刷新するなど改革に着手しました。財団ではその改革について様々な面から積極的に支援していきます。

① SSTA 活性化支援

SSTAの活動状況のみをみると、昨今の教員を取り巻く環境（高齢化の進行、若手の減少、教員の理科離れ、ワークライフバランスの兼ね合いなど）から支部活動が活発なところと、そうでないところの2極化が進み、結果、実践論文の応募数も凋落傾向が否めず、課題となっています。SSTA常任理事会ではその対策について熱心な議論を経て改革案をまとめました。2021年度はその実行が期待され、財団としても従来の支援方法を見直し、より効果的な経済的助成をするとともに、人的支援、組織運営やイベントマネジメントなどのノウハウ提供も積極的に行っていきます。

② SSTA 主催研修会への支援

SSTA研修体系の見直しは改革の最重要施策ですが、中でも2021年度は「トップリーダー育成研修会」の立ち上げについて注力支援していきます。「トップリーダー育成研修会」は、これまでの「全国特別研修会」に代わるもので、SSTAの将来を幹部として担い、日本の科学教育の普及や改革に資する人材を育成することを目的として再定義しました。2021年度はSSTA企画研修委員を対象にトライアルとして実施、2022年度より、本格導入する予定です。なお、全国を複数のエリアに分けて行う支部合同のブロック研修会と若手教員研修会については2021年度もコロナ禍の影響が不透明なため、集合研修ではなく、オンラインによる開催を各エリアにて検討を進めています。財団としても行政単位での交流しかない教員が支部（都道府県）を超えて交流できる機会は有意義と考え、いかなる支援ができるか見極めつつ、支援していきます。

以 上